

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.32

日時	2013年9月21日
行脚先	脇城
住所	徳島県美馬市脇町（阿波国）
行事名	うだつ祭り

特徴

築城年代は定かではありませんが、戦国時代初期に脇権守仲房が館を構えたのが始まりと言われ、天文2年(1533年)に三好長慶が築城し、三河守兼則が守護しました。弘治2年(1557年)、大和国より武田上野介信頭が脇城に入り三好氏に仕えました。この上野介信頭は武田信虎の子で武田信玄の異母弟とされる人物です。天正10年(1582年)、阿波を攻略した長宗我部氏が脇城へ押し寄せ、信頭・信定父子は讃岐へ逃れましたが、逃亡先で討たれました。その後、長宗我部親吉が脇城に入りましたが、天正13年(1585年)羽柴秀吉・黒田官兵衛による四国征伐により降伏開城しました。蜂須賀家政が阿波に入国すると家老稲田植元が一萬石を領して脇城主となり、脇城を改修して阿波九城の一つと位置づけられました。家政は特に脇城を重要視し、家臣団の筆頭である家老の稲田植元を城代として置いたそうです。稲田氏は城の強化と城下町の整備を行い、脇町は阿波西部の中心地として繁栄しましたが、一国一城令により、寛永15年(1638年)に廃城となりました。虎伏山と呼ばれる一帯が脇城址ですが、現在はほとんど雑木林と化しており往時の遺構ははっきりとはわかりません。町の中心街に残る「うだつの町並み」が、脇町が城下町だったことを偲ばせています。

黒田官兵衛との関わり

安土桃山時代の天正13年(1585年)に行われた、羽柴秀吉と長宗我部元親との戦「四国征伐」では、黒田官兵衛は宇喜多秀家・蜂須賀正勝・戦国秀久らと共に羽柴軍として四国攻めに加わりました。羽柴軍が喜岡城(当時の高松城)を攻略して高松頼邑を討ち取り、香西城・牟礼城を攻略しようとする際、戸波親武の守る植田城の守りの堅さを見てとった官兵衛は、これを放置して阿波攻撃を優先することを主張しました。他の諸将もこれに同意して大坂越えより阿波に入り、秀長軍との合流を図りました。結果的にこの転進は大成功となり、元親の防衛策はこの次点で失敗したと言われています。また、戦を決着付けた岩倉城・脇城には黒田官兵衛の策略が大きく貢献しました。

応援品

【藍染の扇子 24本】 美馬市様より

美馬市様の伝統工芸「藍染」で染め上げた扇子を「黒田二十四騎」にちなんで24本頂戴しました。



記録

